

レスリング選手の性格特性  
—平成22年度天皇杯全日本レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と競技  
成績との関係・K大学、K大学院・K大学OB、T大学の場合及び、高校生の場合—

A study of relationships between changes of characteristic traits and peak  
performance of wrestlers  
— in the case of K- and T-universities' and high school' wrestlers —

滝山 将剛\*, 和田 貴広\*\*, 西口 茂樹\*\*\*, 嘉戸 洋\*\*\*\*

Yukitaka TAKIYAMA\*, Takahiro WADA\*\*  
Shigeki NISHIGUCHI\*\*\* and Hiroshi KADO\*\*\*\*

ABSTRACT

Using the same method previously used for the characteristic trait test (Y-G test) and based on our previous reports, we investigated relationships between changes of characteristic traits in wrestlers just before a big competition (Emperor's All-Japan Competition in 2010) and their peak performance. In particular, with regard to our present results of the investigation of relationships between changes in characteristic traits and peak performance, we focused not only on changes of characteristic types but changes of individual characteristic traits. Based on the present results, we summarized as follows: 1) Most of the recent results have confirmed the previous results, that is, most wrestlers who have positively-changed characteristic traits before and after the competition showed peak performance; 2) in the present study, D-type and A-type are 39%, individually. The different types of characteristic traits of wrestlers have also confirmed previous reports. 3) However, as tested subjects were young wrestlers in the present study, relationships between individual peak performance and characteristic traits before and after competition were highly variable. Although we can not explain these variable relationships in details, this evidence may suggest a new tendency of characteristic traits in recent young wrestlers and may be an important factor in creating future study and training programs.

---

\* 国士舘大学体育学部 (Faculty of Physical Education Kokushikan university)

\*\* 国士舘大学体育学部 (Kokushikan University Wrestling Coach)

\*\*\* 拓殖大学 (Takushoku University)

\*\*\*\* 環太平洋大学 (International pacific university)

## I はじめに

競技者の競技力向上に関する要因は多種多様であるが、その要因を大まかに分類すると、選手の身体的側面（体力、技能、技術）に関わる要因と、心理的側面（情緒、気力、性格）に関わる要因に分けることが可能であろう。厳しい戦いが要求される格闘技においては究極の場面において、ともすれば身体的優位を凌駕して心理的優位性が勝敗の決定に及ぼす比重が極めて高いことは常日頃から痛感することである。

筆者らは<sup>3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11)</sup>、内面的な側面を科学的に解析する目的で、性格検査として広く受け入れられ、信頼性の高さで定評のある谷田部・ギルフォード (Yatabe-Guilford) YG性格検査<sup>13)</sup> (以下、YG検査) を使用して、試合前に動揺しやすい選手の内面を把握することに努めてきた。即ち、YG検査を選手の心理的变化が著しく起こると考えられる選手にとって、最も大切な試合(オリンピック大会、世界大会、国内大会など)前後に実施し、同じ条件下でどの性格類型の者が、どのような情緒的变化をきたすかについて調べる方法である。これまでの結果から、今まで漠然と、しかも経験的に捕らえられていた選手の試合直前の情緒的变化が、実際の試合結果と大きな関わりを持つことが分かってきた。即ち、YG検査の性格類型と情緒尺度 (D: Depression抑うつ性、C: Cyclic Tendency気分の変化、I: Inferiority劣等感、N: Nervousness神経質、O: Objectivity客観性) に、それらが如実に反映されることが分かった。換言すれば「心理的側面の変化を科学的に捕らえることができるようになった」ということである。

そこで、これらの一連の研究の継続として、極端に短縮された試合時間内での、一瞬の攻防に卓越した集中力と決断力が要求される現行ルール、試合時間 (Free Style: 2分・30秒休・2分、Greco Roman Style: スタンド1分30秒・30秒グラウンド攻防) において、先の報告と同様な方法を用いて、

特に今回はレスリング選手の性格特性と試合前後の情緒的变化と競技成績との関係について調査、解析した。そして、その結果を今まで筆者らが報告してきた結果と比較することによって、今後の競技力向上の施策の一助にすることを目的とした。

## II 対象者及び調査方法

対象者は、平成22年12月21日から23日の3日間、代々木第二体育館で開催された平成22年度天皇杯全日本レスリング選手権大会に出場したK大学生8名、大学院生2名、K大学OB1名、T大学生10名及び、トップレベルの高校生2名の合計23名を対象とした。表1に、氏名、スタイル、階級、年齢、学年、今回の成績、過去の成績を示した。その際、性格特性を知る目的で、1回目は12月1日 (○印)、2回目はフリースタイル、グレコローマンスタイル及び、各階級によって異なるが、情緒的側面の変化を知る目的で最も緊張が高まっていると推測される軽量前夜 (△印)、3回目は試合後2週間以後 (●印) に、YG検査を実施した。その際、高校生選手については高校生用YG検査用紙を使用した。YG検査の実施方法、その処理方法などは先の報告の通りである。

## III 結果と考察

### 1. レスリング選手の性格特性について

表2に、対象者23名の性格特性比率をまとめて示した。YG性格プロフィールの類型に準じ、得られた23名の試合前 (普段○)、試合直前 (軽量前夜△)、試合後 (2週間後●)、3回の性格プロフィールから5の型に分類可能であった。それらの結果から、D型右下がり型 (安定積極型) 9名 (39%)、A型平均型 (平凡型) 9名 (39%)、E型左下がり型 (不安定消極型) 3名 (13%)、B型右より型 (不安定積極型) 1名 (4%)、C型左寄り型 (安定消極型) 1名 (4%) であった。これらの結果から、すでに報告されているスポーツマンの性格<sup>1) 2)</sup> を示す

表1 2010 天皇杯 全日本レスリング選手権大会出場のK大学生・K大学院生・K大学OB・T大学生の氏名、スタイル・階級、年齢、今回の成績及び過去の成績

F:Free style G:Greco Roman style

| 氏名   | 階級      | 年齢 | 今回の成績 | 過去の成績                    | 備考    |
|------|---------|----|-------|--------------------------|-------|
| Y. T | F55kg級  | 16 | 1回戦敗退 | インターハイ2連覇 ユース五輪優勝(54kg級) | 高校2年生 |
| H. O | F60kg級  | 22 | 3位    | 天皇杯優勝 アジア大会2位            |       |
| Y. U | G60kg級  | 21 | 1回戦敗退 | インカレ優勝 '10世界学生F60優勝      |       |
| S. Y | G60kg級  | 21 | 3位    | 明治乳業杯5位                  |       |
| Y. K | G60kg級  | 20 | 1回戦敗退 | JOC杯優勝                   |       |
| T. A | F66kg級  | 20 | 1回戦敗退 | 内閣総理大臣杯3位                |       |
| S. F | G66kg級  | 21 | 2回戦敗退 | 明治乳業杯3位                  |       |
| Y. O | G66kg級  | 22 | 優勝    | 内閣総理大臣杯優勝                |       |
| D. S | F74kg級  | 18 | 1回戦敗退 | 千葉国体少年優勝                 | 高校3年生 |
| S. M | F74kg級  | 23 | 1回戦敗退 | 社会人オープン優勝                |       |
| K. K | F74kg級  | 20 | 1回戦敗退 | 明治乳業杯5位                  |       |
| S. T | F74kg級  | 21 | 3位    | インカレ2連覇                  |       |
| T. F | G74kg級  | 20 | 1回戦敗退 | JOC杯優勝                   |       |
| D. K | G74kg級  | 20 | 1回戦敗退 | 東新人戦優勝                   |       |
| Y. S | F84kg級  | 21 | 5位    | 09東新人戦優勝(74kg級)          |       |
| T. O | G84kg級  | 22 | 優勝    | インカレ2連覇                  |       |
| T. H | F96kg級  | 21 | 1回戦敗退 | 08東新人戦優勝                 |       |
| T. S | F96kg級  | 25 | 5位    | 09天皇杯優勝(120kg級)          |       |
| N. I | F96kg級  | 23 | 1回戦敗退 | 明治乳業杯5位                  |       |
| M. T | G96kg級  | 20 | 2回戦敗退 | 国体3位                     |       |
| K. M | G120kg級 | 20 | 2回戦敗退 | インカレ5位                   |       |
| Y. U | F120kg級 | 22 | 1回戦敗退 | 明治乳業杯5位                  |       |
| M. T | G120kg級 | 20 | 3位    | 天皇杯5位                    |       |

N=23

D右下がり型(安定積極型)の性格を示す選手が9名(39%)で最も多くみられた。このことは先に報告されている性格特性の範疇に属するものであった。注目されることは、A平均型(平凡型)が9名(39%)とD型右下がり型(安定積極型)と同数であったことである。このA型の増加は先の報告を支持するものであり、この性格特性は平均、またはそれに近い状態を示し、万事についてとりたてて特徴を示さないもので、平凡な性格であり積極的にこれと言って特徴をみいだせない性格特性で臨床心理学的には問題点のないも調和的タイ

プである<sup>13)</sup>。このことは、自己表現の少ない調和的適応的な新タイプの出現であることを示唆するものと推察される。このことについては継続調査が必要と考える。また、今まで競技者としては、どちらかと言えば異端視されてきたE型(不安定消極型)を示した選手が2名(8%)みられた。E型の漸増するこの傾向は近年特に顕著であり、筆者らがこの研究を開始して以来20数年が経過したが、国際大会などで活躍する選手においてもこの型を示す選手みられた。従来はD型を示す選手はスポーツマン的性格と呼ばれ、競技者として最

表2 2010 天皇杯 全日本レスリング選手権大会出場のK大学生・K大学院生・K大学OB・T大学生の性格特性の人数とそのパーセンテージ

|             |         |
|-------------|---------|
| D-型(安定積極型)  | 9名(39%) |
| A-型(平凡型)    | 9名(39%) |
| E-型(不安定消極型) | 2名(9%)  |
| B-型(不安定積極型) | 2名(9%)  |
| C-型(安定消極型)  | 1名(4%)  |

N=23

も好ましいとされて来た。しかし、生活環境、その他時代の変化に相応して、従来では考えられないような性格特性を有する選手が出現し、選手の心理的側面において質的变化が確実に起こっていることを示している。従って、画一的な選手管理法では対応できないことを示唆しており、技術面での改変と平行して、いかなる性格特性を保持した選手の出現が予想されるが、選手の個々の個性を十分にいかす指導法を常日頃から十分考えておかなければならないことを示唆するものである。

2. 情緒変化と競技成績との関係について

先の報告において、対象者全員の各尺度の平均値について検討を試みたが、各選手の特徴が相殺され事実の解明が不能であったことから、今回は各選手の特徴について、個々に考慮することにした。付言すれば、今までの日本人的な発想の原点として、物事すべて平均的にみようとする発想(中庸の精神)があり、成功する例が多かった。しかし、世界の頂点に立つための知見を得るためにこの発想がかえってマイナスで、他とは異なった特徴的なものに注目する重要性が示唆される。そこで今回は対象者を個々について考察することにした。

1) D-型について

図1はD-型を示したフリースタイル(以下F) 96kg級T,S選手のもので

ある(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)、C尺度(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)、I尺度(劣等感大)、N尺度(神経質)など情緒不安定を示す尺度において因子の変化はみられなかった。このことから情緒的側面においては全く動揺が無く平常心を保っていたものと推察される。競技成績との関わりについては、今大会は3回戦で2位になった選手に逆転負けを喫し5位という予想外の結果におわる。試合内容は明らかにスタミナ不足であった。これは階級変更による約20kgの減量からくる未経験の身体的変化に対する対応不足と推察される。注目されることは、2週間のYG検査において情緒的側面の尺度因子が不安方向に大きく移っていた。これは予想外の敗戦からくる精神的不安定の表れと推察される。

図2はD-型を示したグレコローマンスタイル(以下G) 60kg級Y,U選手の結果である(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)、C尺度(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)、I尺度(劣等感大)、N尺度(神経質)などの情緒不安定を示す尺度において因子の変化はみられなかった。これは、試合直前は情緒的側面においては気力が充実していたものと推察される。競技成績との関りについては、試合は格下の相手に2nd

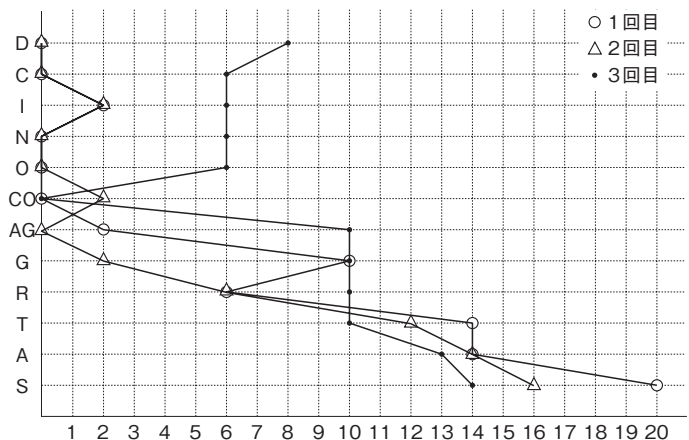


図1 D-型を示したF96kg級T,S選手

priod自ら強引に技を仕掛けたところを押さえ込まれてFall負けを喫する。敗因は心理的側面以外の要因による決着であった。

図3はD-型を示したF84kg級Y,S選手の結果である(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)、C(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)、I尺(劣等感)、N尺度(神経質大)などの情緒不安定を示す尺度においてマイナス要因への変化がみられた。これは、緊張からくる因子の変化であると推察される。競技成績との関わりについては、5位、試合内容からみて、敗因は心理的側面以外の要因であったと推察される。

図4はD-型を示したG66kg級S,F選手の結果である(表1参照)。

情緒変化について、D尺度(抑うつ性)、C尺度(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)、I尺度(劣等感大)、N尺度(神経質)などの情緒不安定を示す尺度においてマイナス要因への因子の変化はみられなかった。これは、心理的側面は安定していたものと推察される。競技成績との関わり、優勝者との対戦においては、試合内容には差が認められた。心理的側面以外の要因を探る必要があると推察される。

図5はD型を示したG60kg級Y,K選手の結果である(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)とI尺度(劣等感大)の尺度において少しのマイナス要因への

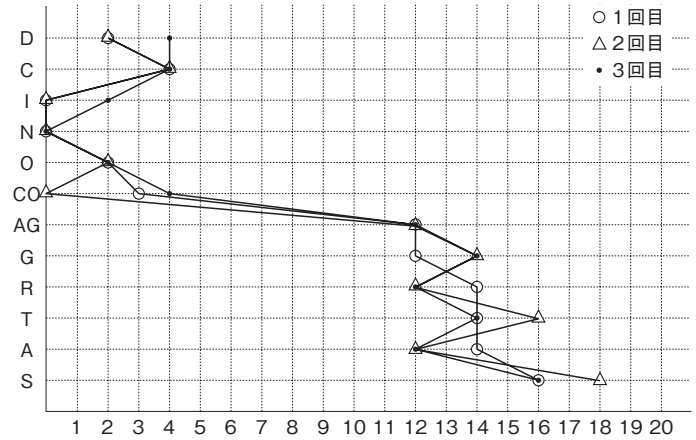


図2 D-型を示したG60kg級Y.U選手

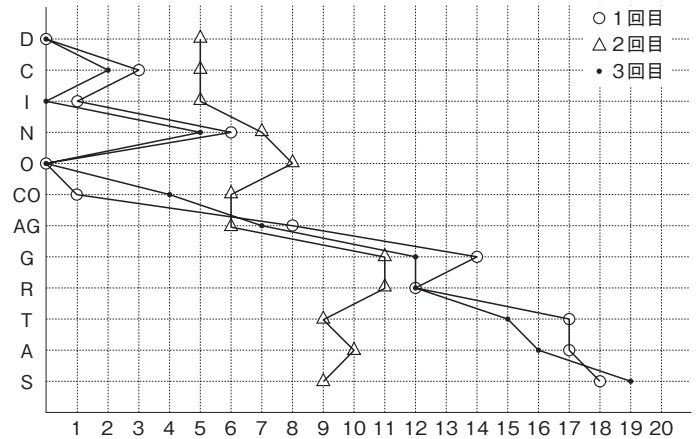


図3 D-型を示したF84kg級S.F選手

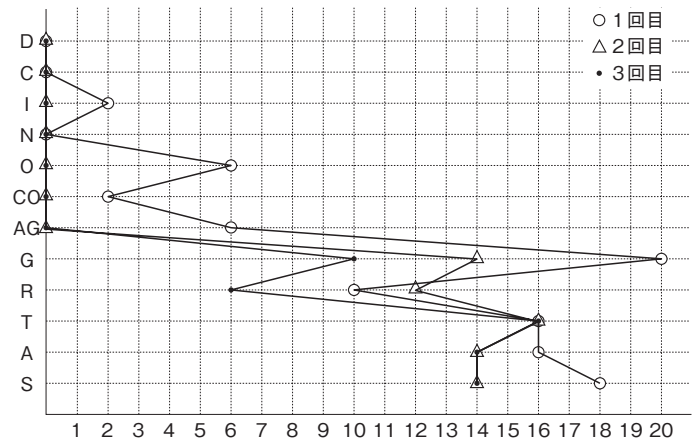


図4 D-型を示したG66kg級S.F選手

変化がみられた。C尺度（回帰性傾向、気が変わり易く感情的）、N尺度（神経質）においてはプラス要因への変化がみられた。これは心理的側面においては、勝敗に影響を及ぼす程の変化とは認められなかった。競技成績との関わりについては、情緒変化の結果から勝敗の要因は心理的側面以外であると推察される。

図6はD-型を示したF66kg級T,A選手の結果である（表1参照）。

試合前の情緒変化を示す尺度、D尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向、気が変わり易く感情的）、I尺度（劣等感）、N尺度（神経質）など全ての尺度で情緒不安定を示す尺度においてマイナス要因への因子の変化は見られなかった。競技成績との関わりについては、格上の選手との対戦で勝敗の要因は自身の競技力によるものと推察される。

図7はD型を示したF74kg級D,S選手の結果ある（表1参照）。

情緒変化については、D尺度（抑うつ性）、N尺度（神経質）においてプラス要因にに変化、C尺度（回帰性傾向、気が変わり易く感情的）、I尺度（劣等感）においてマイナス要因への変化がみられた。これらの因子の変化は最小の変化である。ことから、心理的側面においては勝敗に影響を及ぼす程の変化とは認めがたい。競技成績との関わりについては、格上の大学選手との対戦で1st Priordを獲得する健闘をみせた。将来に希望が持てる試合内容であった。

なを、D型を示したF74kg級T,M

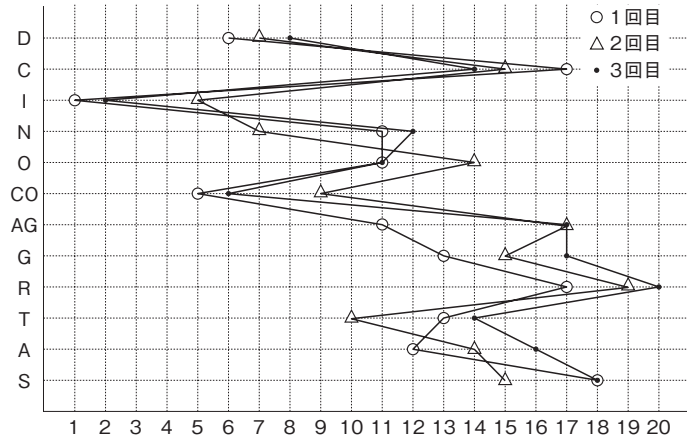


図5 D-型を示したG60kg級Y.K選手

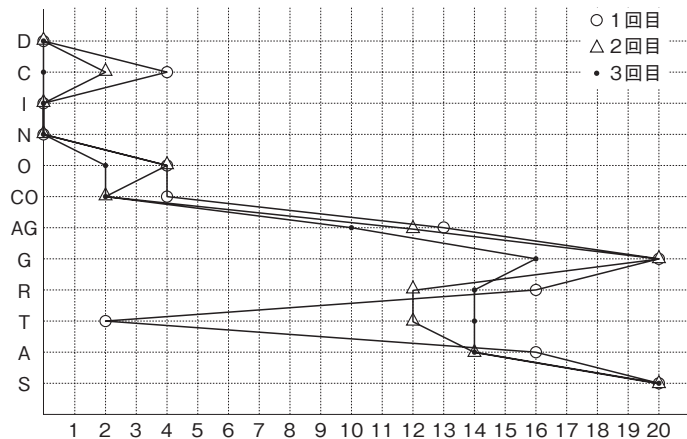


図6 D-型を示したF66kg級T.A選手

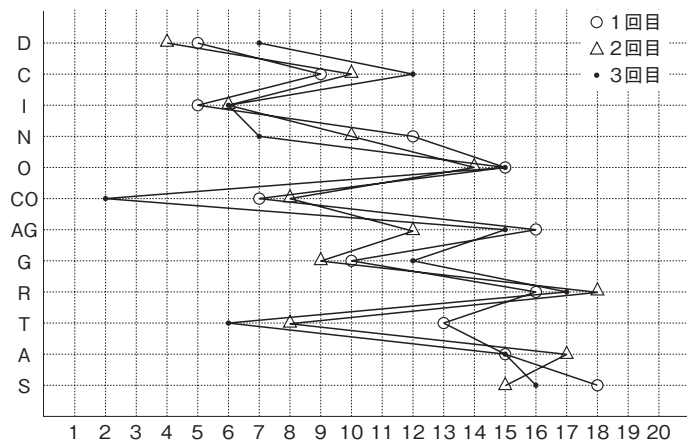


図7 D-型を示したF74kg級D.S選手

選手と、F96kg級T,H選手については資料不備により考察からはずした。

2) A型について

図8はA型を示したF60kg級H,O選手の結果である(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)、I尺度(劣等感)においてマイナス要因への変化がみられ、C尺度(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)においてプラス要因への変化がみられた。アジア大会後約1ヵ月での心身の調整には困難があったと推測されるが、心理的側面においてさしたる動揺はみられなかった。競技成績との関わりについては、3位、優勝者に接戦で惜敗、注目されることは、試合後2週間のYG検査において、情緒不安定を示す尺度が大きくマイナス要因への変化がみられた。同様の現象がD型を示した選手においてもみられた。これは、今後の検討課題である。

図9はA型を示したG66kg級Y,O選手の結果である(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)、C尺度(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)、N尺度(神経質)において変化なく、I尺度(劣等感)のみにおいて最小のマイナス要因の変化がみられた。これは適度な緊張感からくるものと推察され、心理的側面において動揺とは認められない。競技成績との関わりについては、天皇杯初優勝、安定した試合内容であった。

図10はA型を示したG84kg級T,O

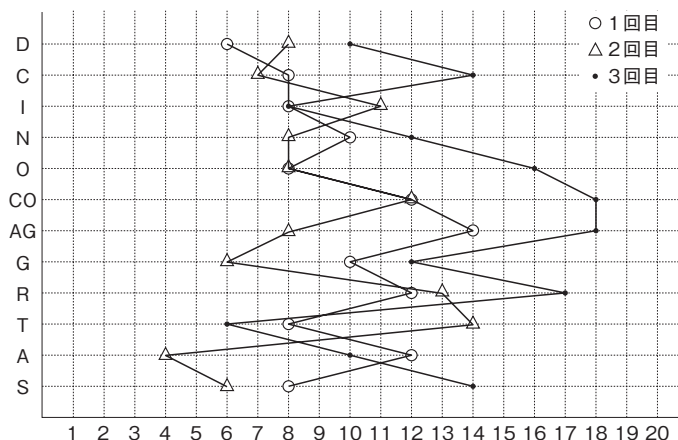


図8 A-型を示したF60kg級H.O選手

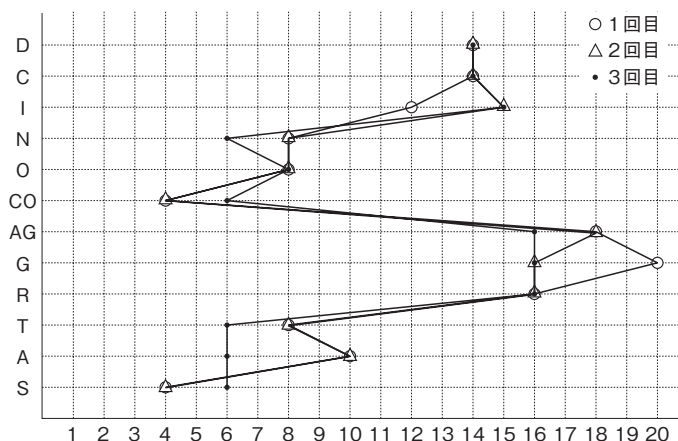


図9 A-型を示したG66kg級Y.O選手

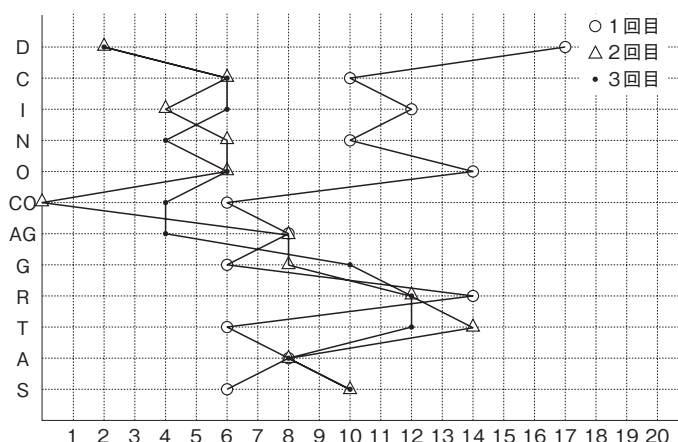


図10 A-型を示したG84kg級T.O選手

選手の結果である（表1参照）。

情緒変化については、D尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向、気が変わり易く感情的）、I尺度（劣等感）、N尺度（神経質）の情緒不安定を示す尺度が大きくプラス要因への変化がみられた。このドラマチックな変化の意味するところは、心理的側面の強さを保持するものと推察される。競技成績との関わりについては、強敵を破って初優勝、大学3年頃より顕著な成長がみられ心理的側面と競技力が合致したものと推察される。

図11はA型を示したF74kg級K,K選手の結果である（表1参照）。

情緒変化については、D尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向、気が変わり易く感情的）、I尺度（劣等感）、N尺度（神経質）の情緒不安定を示す尺度が大きくプラス要因への変化がみられた。このことは、心理的側面は充実していたことが推察される。競技成績との関わりについては、上位進出はできなかったが、将来に期待を持たせる気力ある戦いがみられた。

図12はA型を示したG96kg級N,I選手の結果である（表1参照）。

情緒変化については、C尺度（回帰性傾向、気が変わり易く感情的）、N尺度（神経質）の情緒不安定を示す尺度がプラス要因へ変化し、D尺度（抑うつ性）、I尺度（劣等感）がマイナスの要因への変化がみられた。これは緊張感からくる心理的側面の変化が現れたものと推察され、競技力に影響する程の動揺ではないと考えられる。競技成績との関わりについては、1回戦で今大会の優勝者と対戦し、勝利寸前まで追い込

だが惜敗した。

図13はA型を示したF120kg級Y,U選手の結果である（表1参照）。

情緒変化については、D尺度（抑うつ性）、C型（回帰性傾向、気が変わり易く感情的）、I尺度（劣等感）、N尺度（神経質）の全てがプラス要因へと変化していた。このことから心理的側面において動揺は無かったものと推察される。競技成績との関わりについては、勝敗は心理的要因ではなく自身の競技力に起因するものと考えられる。

図14はA型を示したG120kg級S,T選手の結果で

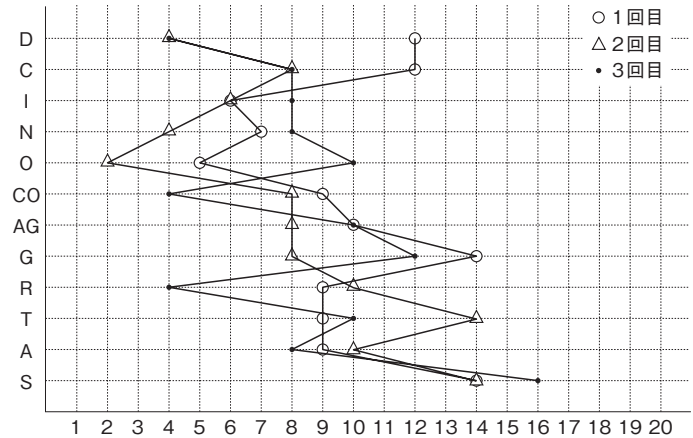


図11 A-型を示したF74kg級K,K選手

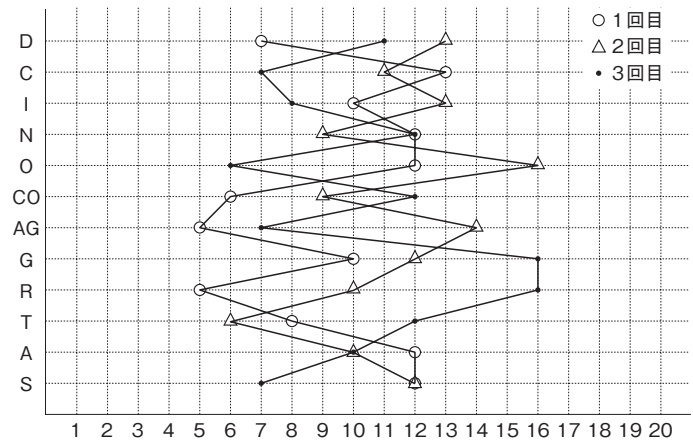


図12 A-型を示したG96kg級N,I選手



一平成22年度天皇杯全日本レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と競技成績との関係・K大学、K大学院・K大学OB、T大学の場合及び、高校生の場合—

ある（表1参照）。

情緒変化については、D尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向、気が変わり易く感情的）、I尺度（劣等感）、N尺度（神経質）の全てにおいてマイナス要因に変化していた。これは、緊張感の高まりが前面に出ているものと推察される。競技成績との関わりについては、出場選手が少数のため3位入賞、数値の変化が示す程心理的側面の動揺は無かったものと推察される。

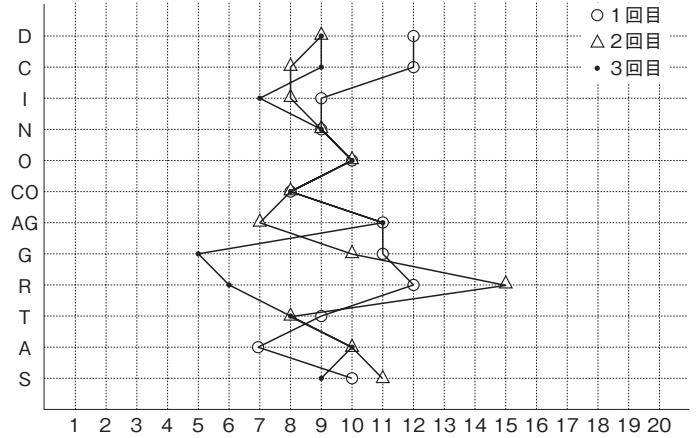


図13 A-型を示したF120kg級Y.U選手

図15はA型を示したG74kg級T,F選手の結果である（表1参照）。

情緒変化については、D尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向、気が変わり易く感情的）、I尺度（劣等感）、N尺度（神経質）の全てにおいてプラス要因へと変化していた。このことから心理的側面においては完璧に近い充実が図られていたものと推察される。競技成績との関わりについては、勝敗は心理的側面の要因ではなく自身の競技力に起因するものであると推察される。

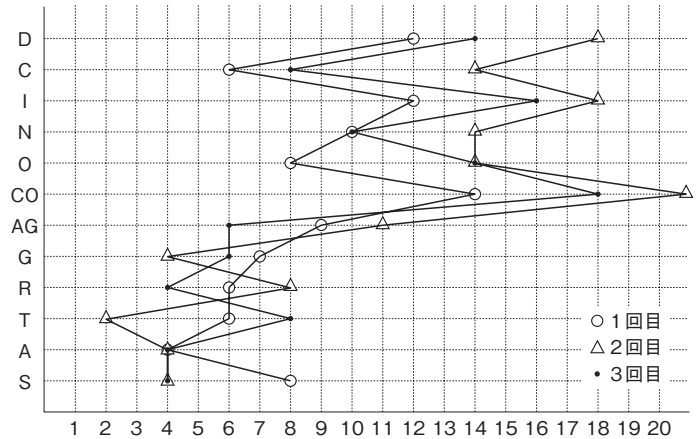


図14 A-型を示したG120kg級S.T選手

図16はA型を示したG74kg級D,K選手の結果である（表1参照）。

情緒変化については、D尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向、気が変わり易く感情的）、I尺度（劣等感）、N尺度（神経質）の全てにおいてマイナス要因に変化していた。これは、緊張感の高まりが心理的側面の動揺となったものと推察される。競技成績との関わりについては、勝敗は自身の競技力に起因するものと推察される。

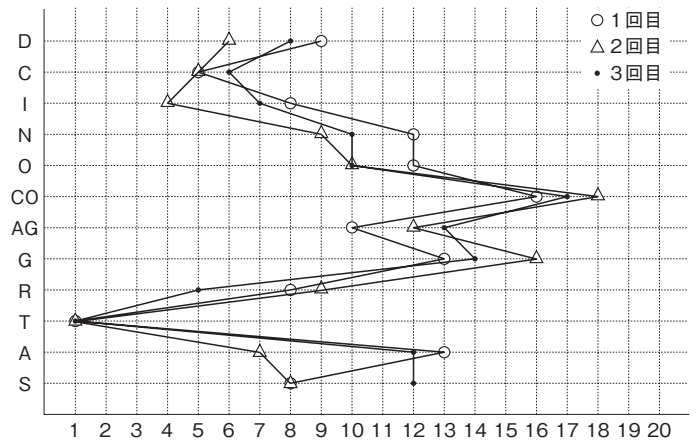


図15 A-型を示したG74kg級T.F選手

3) B型について

図17はB型を示したF74kg級S,T選手の結果である(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)、C尺度(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)、I尺度(劣等感)、N尺度(神経質)、O尺度(主観的)、Co尺度(非強制的)、Ag尺度(攻撃的)、G尺度(活動的)、R尺度(のんき)、A尺度(支配性)、S尺度(社会的外向)らの項目において3回実施のYG検査の因子が全く同数を示していた。唯一、異なったのは、T尺度(思考的外向)の2回目(△)のみであった。これは、筆者らが20数年調査してきたが初めてのケースである。このことは、いかなる環境下にも左右されない強固な心理的側面を保持しているものと推察される。競技成績との関わりについては、3位、日本のトップ選手であり、将来を嘱望される選手である。

4) C型について

図18はC型を示したF55kg級Y,T選手の結果である(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)、N尺度(神経質)においてプラス要因に変化がみられた。C尺度(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)、I尺度(劣等感)においてマイナス要因への変化がみられた。各尺度とも小数の変化であることから心理的側面の動揺とは考えにくい。むしろ適度の緊張感が集中力を高めたものと推察される。競技成績との関わりについては、トップクラスの選手から1st Priodを獲得し、互角に戦う健闘が光った。将来に大いな

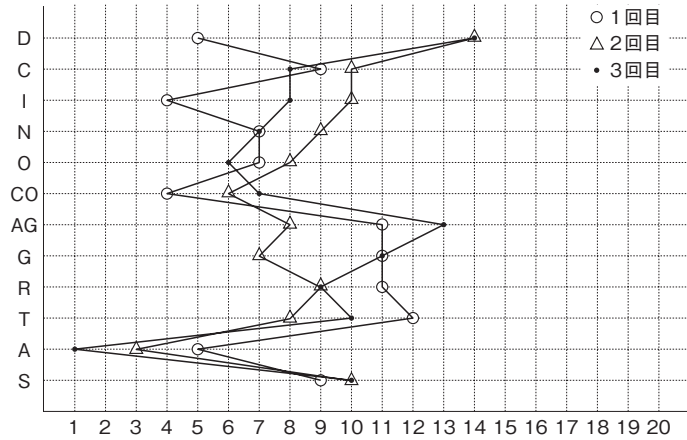


図16 A-型を示したF74kg級D.K選手

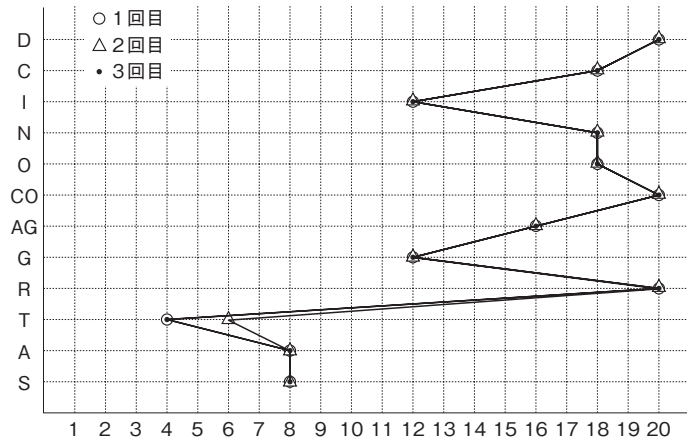


図17 B-型を示したF74kg級S.T選手

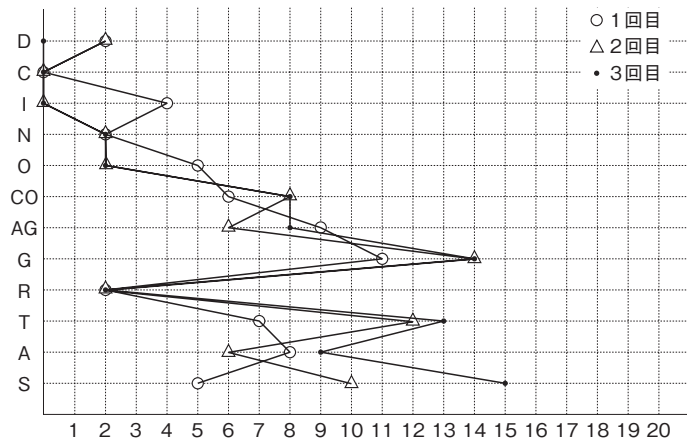


図18 C-型を示したF55kg級Y.T選手

平成22年度天皇杯全日本レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と競技成績との関係・K大学、K大学院・K大学OB、T大学の場合及び、高校生の場合の可能性を示す試合内容であった。

5) E型について

図19はE型を示したG60kg級S,Y選手の結果である(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)、C尺度(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)、I尺度(劣等感)、N尺度(神経質)らの尺度においてマイナス要因への変化がみられた。これは、高まる緊張感から全ての尺度の因子が不安定要素に変化したものと推察される。心理的側面には不安要素が存在すると推察されるが試合においては勝負強さを発揮していた。競技成績との関わりについては、同格の選手との接戦を制する勝負強さをみせて3位入賞。

図20はE型を示したG96kg級T,T選手の結果である(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)、C尺度(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)については変化なし、I尺度(劣等感)はプラス要因に変化、N尺度(神経質)はマイナス要因へ変化していた。これは、緊張感が高まりと、冷静さが交錯していたものと推察される。競技成績との関わりについては、勝敗は自身の競技力に起因するものであった。

図21はE型を示したF120kg級K,M選手の結果である(表1参照)。

情緒変化については、D尺度(抑うつ性)、C(回帰性傾向、気が変わり易く感情的)、N尺度(神経質)においてプラス要因に変化していた。I尺度(劣等感)変化なし、こ

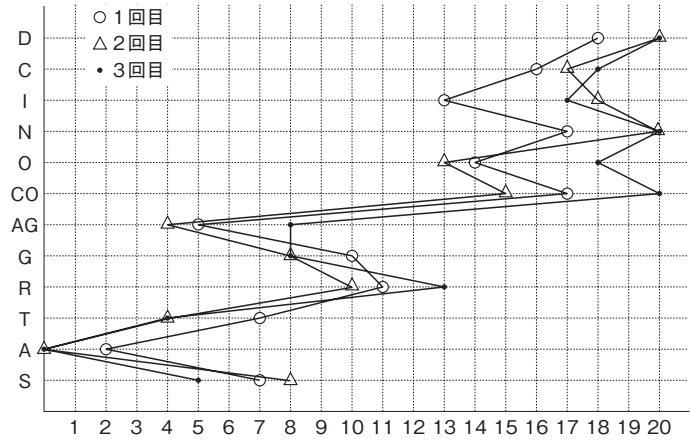


図19 E-型を示したG60kg級S.Y選手

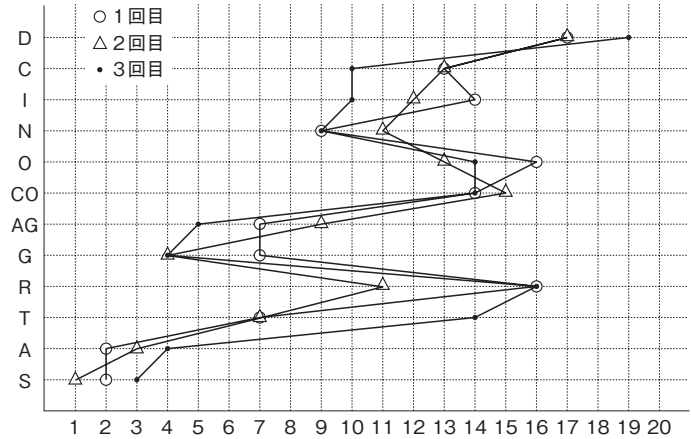


図20 E-型を示したG96kg級T.T選手

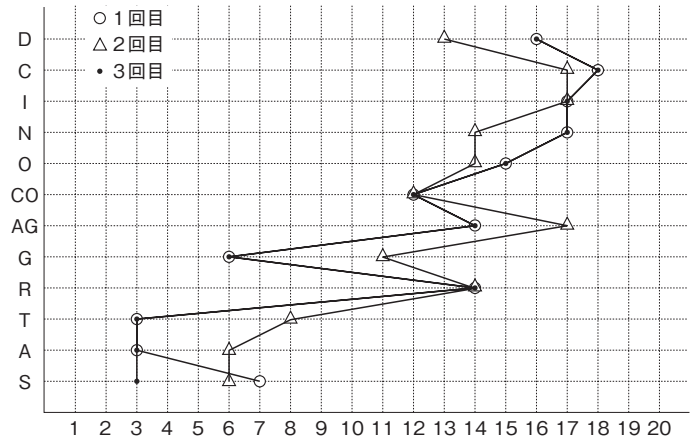


図21 E-型を示したF120kg級K.M選手

れは、緊張感の高まりが良い緊張感に変化しているものと推察される。このことは、高校チャンピオンを経験していることで心理的側面は充実しているものと考えられる。

#### IV ま と め

平成22年度天皇杯全日本レスリング選手権大会に出場したK大学生8名、K大学・大学院生2名、K大学OB1名、T大学生10名、高校生2名の合計23名を対象にYG性格検査の結果から以下の結果が得られた。

##### 1) 性格類型

D型9名(39%)、A型9名(39%)、E型3名(13%)、B型1名(4%)、C型1名(4%)の性格類型であった。これらは先の報告を支持するものであり、A型の急増や、E型の漸増も先の報告の範疇に属していた。

##### 2) 情緒変化と競技成績との関係について

情緒変化がプラス要因に変化したG84kg級T,O、G66kg級Y,Oらは優勝し、他の選手らは好成績をあげ、試合内容が良好であった。このことは、先の報告を支持する結果であった。情緒変化がマイナス要因即ち、不安要素に変化した競技成績に直接影響したケースは特に認められなかった。今回は、対象者の年齢が若く、心理的側面もさることながら、自身の競技力の未熟さがあり競技成績に結びつかないケースが多かった。

今後の課題は、D型を示したT,S選手、A型を示したH,O選手らの試合後実施3回目(●)の情緒変化に不安要素の出現については今後の研究課題である。

#### 謝 辞

本研究は、体育学部附属体育研究所2010年度の研究助成によって実施した。

#### 引用・参考文献

- 1) 小林晃光：スポーツマンの性格－性格からみた運動競技上達への道－、杏林書院、1986
- 2) 花田啓一・他：スポーツマン的性格、不昧堂P83～92、1968
- 3) 滝山将剛他：レスリング選手の性格特性（第I報）－試合前後の変化について－、国土館大学体育研究所、第5巻、P31～37、1979
- 4) 滝山将剛他：レスリング選手の性格特性（第5報）、－第24回ソウルオリンピック大会の試合前後における情緒の変化と競技成績との関係－、国土館大学体育研究所報、P13～19、1988
- 5) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性と試合前後の性格情緒の変化と競技成績との関係、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、P206～209、1991
- 6) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒変化と競技成績との関係、日本体育協会医・科学研究報告、P277～279、1992
- 7) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒的变化との関係、日本体育協会医・科学研究報告、No II 競技力向上に関する研究、P259～262、1994
- 8) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性（第6報）：－1993年度世界選手権大会及び、エスポアール世界選手権大会における試合前後の情緒変化と競技成績との関係－、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No II 競技力向上に関する研究報告、P291～294、1995
- 9) 滝山将剛他：レスリング選手の性格特性（第7報）第21回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と試合成績との関係・優勝チームのK大学の場合、国土館大学体育研究所報Vo14、P11～14、1996
- 10) 滝山将剛他：レスリング選手の性格特性（第8法）第23回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化とK大学の場合、国土館大学体育研究所報、Vo16、P63～68、1997
- 11) 滝山将剛：試合前後の情緒の変化と競技成績との関係について、－2009箱根駅伝におけるK大学の場合－、国土館大学体育研究所報、P43～48、2009
- 12) 滝山将剛他：レスリング選手の性格特性試合前後の情緒の変化と競技成績との関係 第9報－平成21年度天皇杯全日本におけるK大学生及び、大学院生の場合－、国土館大学体育学部研究所報V17、P～P、2010
- 13) 辻岡美延：YG性格検査手引き、日本心理テスト研究所、1978